



2025/3/14
ひかりの子幼稚園

「目には見えない心の育ちを信じて」

寒い冬を耐えて桜のつぼみが膨らみ、チューリップの球根が力強く土を持ち上げ、芽を出し、花を咲かせようとしています。早いものでとうとう年長組は卒園式を迎えました。神さまの守りの中でひとり一人が愛され、のびのび安心し、多くの人と関わりながら過ごした子どもたちの成長が眩しく、また誇らしく心から嬉しく思っています。

この園で毎日遊び、笑い、泣き、ぶつかり、ケンカして、考え、話し合い、仲直りした日々の経験の中で、子どもたちには何が育ったのでしょうか？

人間の成長は木に例えられることがあり“目に見えるもの”と“目に見えないもの”に分けられます。

目に見えるもの～体の成長、リレーの結果、縄跳びが出来る、速く走る、字が書ける、絵が上手・・・
目に見えないもの～好きなことに没頭して探求する力、自分の思いを言葉で伝える力、自分で行動する力、他者の思いに共感して協力する力・・・

大きな木には、目には見えない土の中に木を支えるだけの、大きな「根」があります。その根がしっかり根付いていないと、どれだけ大きく成長しようとしても、枝を伸ばそうとしても途中で倒れてしまいます。結局、目には見えない「根」をしっかり育てられた木だけが、高く、大きく、枝葉も伸ばしていけるのです。

この「根」のように、子ども達に育ったものは「目には見えない心の育ち」です。

私たち大人は時に結果を急ぎすぎて「目に見えるもの」を求めてしまうことがあります。しかし「目に見えないこと」を信じ、関心を寄せることがとても大切だと思うのです。これまで「ひかりのこつうしん」や「クラスだより」を通じて「学園の願い」を様々な切り口でお伝えしてきました。

内から伸びようとしている子どもの目に見えない「心の育ち」をあたにかいまなぞしで見守り、保護者の方々と保育者が互いに思いやりを持ちながら、連携し成長していくことこそが学園理念である「共に育つ」です。

私は今後第一線を退き、このつうしんが最終号となりますが、私たち大人に託された「子育て」という尊くやり甲斐のある働きを保護者の方々、そして保育者に託していきたいと思えます。

ひかりの子幼稚園の子ども達の未来が、どうか幸せな人生に繋がっていくようにという願いと祈りを込めてバトンを繋げます。心からの感謝を込めて・・・今までありがとうございました。

～「わたしたちは見えるものではなく、見えないものに目を注ぎます。見えるものは過ぎ去りますが、見えないものは永遠に存続するからです」～

～コリントの信徒への手紙Ⅱ 4章18節～